

4年 道徳

主題名	友達と信頼し合う		
中心内容項目	B-10 主として人との関わりによること(友情・信頼) 「ぼくらだってオーケストラ」		
令和元年	9月13日	1次公開	
児童	4年 1組	22名	
授業者	横山 理恵		

1 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値(教師の価値観)

中学年における友情・信頼については、「互いに理解し、信頼し合う」ことが重要になると考える。仲が良く、助け合うという友達関係にとどまることなく、教え合い、助け合っていく関係を築いていくことが重要である。「教え合い」の中には、「注意し合う、問題点を指摘し合う」という意味も含まれる。注意されたり、指摘されたりすることは決して気持ちのよいことではない。しかし、友達のことを思い、誠実に注意することは信頼関係を高め、友情を深めていくものであるということに気が付かせたい。また、教え合うためには、相手のことをよく理解した上で、考えて行動することが不可欠であることにも気が付かせたい。

(2) 児童の実態(児童観)

本学級の子供たちは、気の合う友達同士で誘い合い、仲良く遊び、困っている子に進んで声をかけて助ける姿がよく見られる。しかし、一緒に遊んでいても、自分の意にそぐわないと、自分勝手な行動をとってしまったり、素直に注意を聞き入れられなかったりする。また、相手の気持ちを考え、仲の良い友達だからこそ、嫌われたくないから注意や忠告はしたくないと考える子は少なくない。このことから、仲良くすることの大切さは理解しているが、互いに信頼関係を築くような深い関わり方には、消極的である子が多いと考える。

【事前アンケート】

内容	結果
・友達いますか	いる 21人 30人以上 15人 いない 1人 20人以上 7人
・友達とはどんな人のことだと思いますか	やさしい・親切・助けてくれる 16人 仲が良い・一緒に遊ぶ人 5人
・友達がいれば良かったと思うときはどんな時ですか	助けてもらった 遊んでいて楽しかった 一人で寂しくなかった
・友達が不愉快な思いをしても、その人のために注意したり、教えたりできますか？	する 8人 しない 14人
それはどうしてですか？	よっぽどじゃないとできない。友達に嫌がっていると自分も嫌な気分になるから 何でも言えるのが友達。あまり気にしない。友達なら言える。

(3) 教材への思い(教材観)

本教材は、リコーダー演奏の苦手な主人公てつおに、なつみが問題点を指摘することから始まる。てつおは、素直になれずに腹立たしさを感じ、知らんぷりする。しかしなつみは、親身になって教え続け、うまくなっていくてつおのことを自分のことのように喜ぶ。自分のことを考えてくれた友達の思いに気が付き、今までと考え方が変わっていく主人公の姿が描かれている。この資料を通して、「相手のことを考える」ということは、相手のために行動して初めて成立すること、時には相手が腹を立てることがあるかもしれないが、誠実に注意したり、教えたりすることで、結果的には友情が深まることに気が付かせたい。そして、友情を深めていくために、恐れずに友達と積極的に関わっていきこうとする心情を高めていきたい。

2 総合単元ユニットとの関係

4年生になり、児童会活動や運動会の実行委員会での活動を通して、子ども達同士の繋がりがや団結力を深めてきた。バス学習や学芸会など、集団での活動が一層活発になり、そこで築いた信頼関係がこれからの人間関係をより深いものにするだろう。この学習を通して、友達のよさを再確認し、友達のために自分がどう行動できるかを考えるきっかけとしたい。また、この学習を生かして、今後の学校生活が友情の深まりと共に、楽しく充実したものとなるようにしたい。

3 研究との関わり

学び合う雰囲気づくりの工夫
教師と子供の温かい人間関係、子供同士の認め合いや励まし合いのできる関係によって、お互いが心を開き、自由に話し合うことができるようにする。

問題意識をもつようにする導入の工夫
子供が自分の問題として捉え、その追求や解決について必然性をもって行うようにする。

自我関与させる展開の工夫
子供が読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的諸価値の理解を図る。

生活とつなげる振り返りの工夫
学習内容や学習活動を俯瞰して納得解をまとめることで、自分の生活や行動、今後の発展へとつなぐことに着眼する機会とする。

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・友達と信頼し合う関わり方を考え、よりよい関係を築こうとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応 (○発問 ◎中心発問)	教師の支援・評価・研修との関わり ●支援 □評価指標 ◎研修との関わり
価値への方向付け	<p>1 ねらいとする道徳的価値に対する興味・関心を高め、「課題」を設定する</p> <p>○友達はいませんか。 ○自分にとって友達とはどんな人でしょうか。</p> <p>・優しい 親切 助けてくれる ・一緒に遊ぶ 仲が良い</p> <p>○その友達とは、どのくらいの友達度なのですか。</p> <p>▲○どんな時に友情は深くなるでしょうか。</p> <p>◀《本時の課題》 友情が深まるのはどんな時だろう。</p>	<p>●学び合う雰囲気づくりを行う。</p> <p>◎自分の生活経験と照らし合わせて考えさせる。</p> <p>◎本時のねらいとする道徳的価値に対して課題意識をもたせる。</p>
価値の追求・把握	<p>2 教材「ぼくらだってオーケストラ」を通して、「課題」を追求する</p> <p>○相手が不愉快そうでも、友達のために注意したり教えたりしますか？それはどうしてでしょうか。</p> <p>・しない・・・相手が嫌がっているから、そういうことはしたくない 言いつらい 自分も嫌な思いをするから。ケンカになるから ・する・・・その人のためになるからする 友達ならわかってくれると思う 友達ならケンカになっても仲直りできる</p> <p>○なつみは、てつおが不愉快でしたが、親切に教え続けました。結果的にこの行動は良かったのでしょうか。</p> <p>・なつみは、てつおが上手に演奏ができるようになって、喜んでいる ・てつおは、最初は不愉快そうだったけれど、リコーダーがふけるようになり、喜んでいる ・てつおは、なつみに恩返しをしたいと思っている</p> <p>◎最初と最後で、この二人の友だち関係はどうなったと言えますか。これからもっと深めるためには、どんなことが大切だと思いますか。</p> <p>・友情は少し深まった。最初は嫌なヤツぐらいにしか思っていなかったが、なつみのために何かしてあげたいと思っている ・相手のことを考えて親切にすること ・てつおが、なつみがしてくれたことに素直になること ・相手の気持ちに気が付くこと ・これからも、相手のために例え相手が不愉快そうでも、良いと思ったことは、自分を信じてやるという</p> <p>◀《共通解》 相手のことを考え、相手のために行動することで友情が深まる。</p>	<p>◎自我関与させる発問から、自分ごととして考えさせる。また、理由を話させることで教材の内容や背景を共通理解させる。</p> <p>●しない・するにネームカードを貼らせることで、立場を明らかにし、児童同士の考えの交流が活発に為されるようにする。</p> <p>●てつおの考え方の変化に着目させることで、本時のねらいに迫っていく。</p>
価値の自覚	<p>3 価値について納得解をまとめる</p> <p>○皆さんなら、友達としてどんな風に関わっていきたいですか。または、これからどんな友達関係を作っていきたいですか。</p> <p>・友達なら・・・という書き出しで</p> <p>○友達がいれば良かった・・・というエピソードを児童の作文(事前アンケート)で紹介する。</p>	<p>◎本時の学習で学んだことについて、自分のこれまでのつながりや、これからの生き方にどのように生かすことができるかを考える。</p> <p>●友情は、人にしてもらうことだけではなく、自分から行動することでより深めていけるものだという視点を与える。</p> <p>□友達の良さを考え、よりよい友達関係を作ろうという意欲をもつことができたか。</p> <p>【発言・ノート】 ●日常生活とのつながりを意識し、これからの意欲付けになるよう、作文(またはアンケート)を紹介する。</p>

(3) 本時の評価

- ・友達と信頼し合う関わり方を考え、よりよい関係を築こうとする心情を育てることができたか。